

フランスの保育学校・教員の状況

大庭三枝(福山市立大学)

1. フランスにおける保育学校の位置づけ
2. 保育学校における幼児に関わる職種
3. 保育学校教員養成の実際
4. フランスの保育学校課程・プログラムの変遷
5. フランスの保育学校における接続

1. フランスにおける保育学校の位置づけ

*保育学校が初等教育に統合化された初等教育組織法（1886）

<フランスの初等教育(l'enseignement primaire)>

小学校前教育 (l'enseignement préélémentaire) : l'école maternelle (保育学校)

小学校教育 (l'enseignement élémentaire)

<保育学校> TPS (2歳) PS (3歳) MS (4歳) GS (5歳)

- ・国民教育省が管轄、2019年9月から義務化（3歳から）
：義務化以前からほぼ全ての3～5歳児が就学（条件によっては2歳児も通う）
- ・保育学校法定化（1881）以来公立保育学校の保育料は**無償**、宗教から独立
- ・活動欲求を持つ幼児期の発達段階に応じた**遊び中心**、五感を育む
- ・給食や延長・早朝保育あり（**実費負担だが保護者の所得によって減免**）
- ・**幼児の生理的リズムを尊重して午睡**が行われる。
- ・おおむね8時半から16時半（時間は自治体によって異なる）、月～金曜（水曜は午前のみの自治体が多い）

（大庭三枝「保育学校現場の視点から考える幼児期の学び」フランス教育学会紀要 2016 pp.19-28）1

2. 保育学校における幼児に関する職種

○校長・教員(国家公務員):教育全般を組織:**教員免許(INSPE・修士号)**

○ATSEM(自治体雇用保育学校専門職員):**CAP幼児教育補助員資格**

- ・1ATSEM/クラスが理想的、自治体の財政事情等によって配置は様々
- ・バカラレア取得後、1年間の研修、14週間の実習→採用試験
 - * 養護:幼児の受入、安全・衛生に関する補助、施設や備品の準備・清掃、給食監督
 - * 教育活動補助:教師が計画し教師の責任のもとで実施される教育活動
 - * 課外活動補助:放課後等のレクリエーション活動の指導
 - * 教員補助:特別な教育的ニーズを持つ幼児の援助

(参照) <https://www.education.gouv.fr/les-missions-des-agents-territoriaux-specialises-des-ecoles-maternelles-atsem-4769>

【2005年障害者法】障害のある児童の通常学級での就学:インクルージョン

(参照)<https://www.monparcourshandicap.gouv.fr/glossaire/loi-handicap-2005>

2. 保育学校における児童に関する職種

○障害のある児童の就学に関する担当教員(ERSEH)(国家公務員)

教員免許(INSPE・修士号)+インクルーシブ教育実践能力認定証(CAPPEI)

- * 就学フォローアップチーム(担任・校長・保護者等)の活動を調整
- * 個別教育計画(PPS)実施:一貫性と継続性の確保(保育学校～高校)
- * 県障害者支援センター(MDPH)の多職種チーム(医師・看護師・療育専門職・カウンセラー・介助職・行政担当など)との緊密な連携
- * 支援の途絶えを防ぐため各接続期(保・小・中・高)における配慮
- * 初等教育(保育学校・小学校)では、学校・家庭(こども)・MDPHを繋ぎ、情報提供・支援・助言・調整の役割を担う
- * 特別任務手当あり

(参照)

3. 保育学校教員養成の実際

- **初等教育教員(小学校・保育学校)**の養成: 師範学校(~1989)

学士号取得は入学条件ではない: Instituteur(Institutrice)男女別学

* 初等教育教員: 保育学校と小学校の児童(2~11歳)を対象

保育学校教員: 女子に限定(~1977)

- **1989年の教育方針法**

→ IUFM: 大学における初等教育教員養成、共学による一元化

修士号取得が卒業要件

⇒ ESPE ⇒ INSPE ○ 学士号取得が入学条件: Professeur

⇒ 中等教育教員と同等の待遇と地位

○ **注1921年: 保育学校教員は小学校教員と同等の待遇と地位獲得**

○ 教職大学院における初等・中等教員の一元的養成

より多くの教員とよりよい養成(Former plus et former mieux)

1年次:教職教育+教科教育+採用試験準備+実習→教員採用試験

* 教育原理、発達心理学、コミュニケーション・スキル、学習心理学、生徒指導論、
教育制度、教育社会学、情報教育、各教科教育等

・体験実習:20時間

2年次:教職教育+実習+修士論文注保育学校+小学校実習、給与支払(1246€/月、2001)

・指導付実習:10週、責任実習:9週、プロジェクト研究:40時間+事前事後指導、他

★実践力を備えた専門職養成(教職教育・教授法・教育実践と教育研究の結合)

◎芸術文化、体育、外国語から得意分野を伸ばす

◎学校とその価値を知る:哲学、教師(公務員)倫理、世俗性、道徳的責任、教育法

◎学校現実について学ぶ: ①保育学校との接続②児童の多様性③学校への適応
④教育優先地域にある学校間、学校－地域間の連携、等

<参考文献>

園山大祐(2002)「フランスにおける教師教育大学院(IUFM)の問題と展望」日本教師教育学会年報第11巻pp.56-64

4. 保育学校課程・教育プログラムの変遷

保育学校単独課程(1881～1989)

×読み書き中心の主知主義的教育

○遊び中心：幼児期の総合的発達を考慮した領域横断的な活動

↓1989

保育学校年長クラスと小学校1・2年の同一サイクル(1989～2014)

将来の学業の成功を期し、小学校への準備教育の意味合い

↓2014～

保育学校単独課程：保育学校(幼児期の発達)の独自性を尊重

「幼児期の発達保障(＝将来の基盤)」

4. 保育学校課程・教育プログラムの変遷

フランスにおける教育改革：初等教育を重視

- 保育学校単独課程への回帰：小学校準備教育から幼児教育の独自性を守る

☆**初等教育教員免許(保育学校+小学校)の連続性は維持**

幼児期から児童期の発達連続性に対する理解の必要性⇒教員免許の一元化
(可能にした要因)小学校入学前教育システム(保育学校)が一元である

- 2015年9月～新プログラム

3～5歳児の97%以上が保育学校(公立は無償)に通う

残り3%の約2万5千人は、通わないもしくは不定期(社会背景による格差)

* 2019年9月～義務教育開始年齢を3歳に引き下げ

小1と小2のクラスの児童数を半減⇒少人数クラス

「皆が人生の平等なスタートラインに立つ」

「大人の世界の不平等を子どもの世界に反映させない」(ブランケール国民教育相)

表1 保育学校教育課程における領域の変遷(1986~2021)

		初の保育学校プログラム (Programme : 教育要領) 制定 (1995) 以来、プログラムに領域が示される					
	1986年(4活動領域)	1995年(5領域)	2002年(5領域)	2008年(6領域)	2015年(5領域)	2020年(5領域)	2021年(5領域)
領域の 名称	身体活動	ともに生きる	学習の中心としての言語	言語を獲得する	あらゆる次元において言語を運用する	あらゆる次元において言語を運用する	あらゆる次元において言語を運用する
	コミュニケーションと話す・書く表現活動	言語を話し構築する、書き言葉の世界に導入する	ともに生きる	書き言葉を理解する	身体活動を通じて行動し、表現し、理解する	身体活動を通じて行動し、表現し、理解する	身体活動を通じて行動し、表現し、理解する
	芸術的・美的活動	世界の中で行動する	身体を使って活動し表現する	生徒になる	芸術活動を通じて行動し、表現し、理解する	芸術活動を通じて行動し、表現し、理解する	芸術活動を通じて行動し、表現し、理解する
	科学的・技術的活動	世界を発見する	世界を発見する	身体を使って活動し表現する	思考を構造化するための最初の道具を構築する	思考を構造化するための最初の道具を構築する	最初の数学的道具を獲得する
		想像する、感じる、創造する	感受性、想像力、創造性	世界を発見する	世界を探検する	世界を探検する	世界を探検する
				感じ取る、感知する、想像する、創造する			
教育課程		(1989.9 – 2014.6) 保育学校と小学校の連続した教育課程 基礎学習課程 (保育学校年長児クラス + 小学校第1、第2学年)			2014.9 ~ 保育学校単独課程 (最年少・年少・年中・年長児クラス)		
教員養成		(1989 – 2013) IUFMによる初等教育 (保育学校・小学校) 教員養成 bac+5 (修士修了相当) : 初等教育 (2~11歳対象) 教員養成一元化			2013~ESPEによる初等教育教員 bac+5	2019~INSPEによる初等教育教員 (保育学校・小学校) 養成 bac+5 (修士修了相当)	
前文					子どもたちが ともに学び、ともに生活する学校		
政治	ミッテラン政権	シラク政権		教育予算緊縮 (サルコジ政権)	初等教育重視 (オランド政権)	義務教育開始年齢を3歳に (2019.9 ~) (マクロン政権)	
社会	EUの成立			リーマン・ショック	パリ同時多発テロ	COVID-19の世界的流行	

・<https://www.education.gouv.fr/cid33/programmes-et-horaires-a-l-ecole-maternelle.html> (国民教育省・保育学校に関するHP) から大庭が翻訳、抜粋・編集して作成

- Ministère de l' Éducation Nationale, 1993, *L'enseignement primaire en France*
- Ministère de l' Éducation Nationale, 1995, Programmes de l'école primaire. Bulletin Officiel hors-série n°5
- Ministère de l' Éducation Nationale, 2002, Horaires et programmes d'enseignement de l'école primaire, Bulletin Officiel hors-séries n°1
- Ministère de l' Éducation Nationale, 2008, Horaires et programmes d'enseignement de l'école primaire, Bulletin Officiel hors-série n°3
- Ministère de l' Éducation Nationale, 2015, Programme d'enseignement de l'école maternelle, Bulletin Officiel spécial N°2
- Ministère de l' Éducation Nationale, 2020, Programme d'enseignement de l'école maternelle, Bulletin Officiel n°31
- Ministère de l' Éducation Nationale, 2021, Programme d'enseignement de l'école maternelle, Bulletin Officiel spécial n°25

大庭三枝 「École maternelle (保育学校) 教育プログラムの変遷に関する検討」(福山市立大学教育学部 紀要 vol.12 2024 pp.35-45) p.39より転載 8

5. フランスの保育学校における接続：「連帯」

Le plan d'action maternelle(保育学校行動計画)2023～

* 職種横断的合同研修の開発

保育学校教員・ATSEM・ERSEHなど多職種による協力体制構築

* 接続期の連携強化：発達連續性の保障

就学前施設（乳児保育所：3歳未満）と保育学校の連携

校長・所長は教員と保育者の施設相互訪問を企画・推奨

※研修としての扱い、代替教員の補充には地域差あり

* GS(5歳児クラス)とCP(小学校1年)の効果的な移行を実現

・小1開始時全国評価(フランス語・算数)後：

一人ひとりの結果についてGS担任とCP担任が協議(+校長)

・年度末協議：GS担任とCP担任が新入予定児童一人ひとりについて協議

Ecole Maternelle Langevin Wallon(ロンジュヴァン・ワロン保育学校)の事例

★ Réussites de l'école (訳:学校の成功)

- **地域の文化を重視した文化活動**(コラス、造形表現、絵画、物語等)を通しての実践 →**地域との連携**
- **保育学校年長児クラスと小学校第1学年の関係性**
 - * 接続のための連携強化
→保育学校で開発し**小学校においても活用する教材(語彙集)**は、子ども自身が学習の発展を理解することに役立っている →**小学校との連携**
 - * 作品展示や読み語り等を通じての相互交流 →**保護者・保育施設・行政との連携**
- **保育学校就学前の施設(乳児保育所(0~3歳未満児))・行政(保育補助者管轄)との関係性強化**
 - * 新入児童(2歳・3歳)がスムーズに適応できるように=接続

★学びの基礎となる、幼児期の五感を育てる取り組み

- ・五感スペース:全児童対象、遊戯室に設置(保護者から物品の提供)
- ・感覚や状態を表現する語彙を豊かにする→**語彙のリストは小学校とも共有**(硬い・柔らかい、すべすべ・チクチク等)
- ・小学校・保護者と協働→保育学校・小学校合同学校祭・発表会で協働

(参照)Le projet d'école 2013-2017, Ecole Maternelle Langevin Wallon

3.L'espace à toucher



4.L'espace à sentir



dur/mou



写真3枚はEcole Maternelle Langevin WallonのBarrau校長(当時)提供、右端写真は、学校祭における感覚遊び(保育学校教育内容)を保護者が運営している様子(2014, Ecole Maternelle Langevin Wallon大庭撮影)

【AGEEM版 保護者対象 保育学校プログラム解説書】

* AGEEM(全国公立保育学校(級)教員協会): **1921年設立**

- ・幼児期の発達特性を尊重した保育学校の独自性を追究して研修や研究活動を行う(組合ではない)。
- ・2015年保育学校プログラム策定に参画(Isabelle Racoffier会長(当時))
- ・Var県教育庁と研修に関する協定締結(2025): AGEEM研修(全国・地方等)参加の保障

● サルコジ政権(2008~2012)下、保育学校に対する無理解、教育予算削減

⇒**保護者対象保育学校プログラム解説書を作成(2008)** プログラム改訂時(2015)に改訂版

- ・幼児期の成長欲求・生理的リズムの尊重(午睡、身体活動の重要性等)
- ・保育学校の意義と家庭との関係
- ・保育学校生活におけるプログラムの実践内容

丁寧に説明し理解を求める解説書配布⇒社会に**保育学校の重要性を再確認させる**

⇒国民は、教員増や養成教育充実など実質的な初等教育重視の政策を掲げるオランドを支持

⇒マクロン政権に継承